

戯曲を読む

# 戯曲 とは？

- 演劇の台本
- 演劇の台本で書かれた文芸作品

ポローニウス おお、足音が。陛下、さ、こちらへ。

#### ハムレット登場。

ハムレット このままでいいのか、いけないのか、それが問題だ。

どちらがりっぱな生き方か、このまま心のうちに

暴虐な運命の矢弾をじっと耐えしのぶことか、

それとも寄せくる怒濤の苦難に敢然と立ちむかい、

闘ってそれに終止符をうつことか。死ぬ、眠る、

それだけだ。眠ることによって終止符はうてる、

心の悩みにも、肉体につきまとう

かずかずの苦しみにも。それこそ願ってもない

終わりではないか。死ぬ、眠る、

眠る、おそらくは夢を見る。そこだ、つまりくのは。

この世のわずらいからかうじてのがれ、

永の眠りにつき、そこでどんな夢を見る？

それがあるからためらうのだ、それを思うから

苦しい人生をいつまでも長びかすのだ。

でなければだれががまんするか、世間の鞭うつ非難、

権力者の無法な行為、おごるものの侮蔑、

さげすまれた恋の痛み、裁判のひきのぼし、

役人どもの横柄さ、りっぱな人物が

くだらぬやつ相手にじつとしのぶ屈辱、

このような重荷をだれががまんするか、この世から

短剣のただ一突きでのがれることができるのに。

つらい人生をうめきながら汗水流して歩むのも、

ただ死後にくるものを恐れるためだ。

死後の世界は未知の国だ、旅立ったものは一人として

もどったためしがない。それで決心がにぶるのだ、

見も知らぬあの世の苦勞に飛びこむよりは、

慣れたこの世のわずらいをがまんしようと思うのだ。

このようにもの思う心がわれわれを臆病にする、

このように決意のもって生まれた血の色が

分別の病み蒼ざめた塗料にぬりつぶされる、

そして、生死にかかわるほどの大事業も

# シェイクスピア 『ハムレット』

Shakespeare, William (1601?). *Hamlet* (小田島雄志 訳 『ハムレット』 (白水uブックス、1983) )

第五場 ダンシネーン、城内

太鼓と軍旗。マクベス、シートン、兵士たち登場。

マクベス 城壁に旗をかかげるのだ。まだわめいているな、「敵がきたぞ」か！ この城は難攻不落、包囲する敵を鼻先で笑い飛ばすのみだ。勝手に陣を張るがいい、しょせん、飢えと病にくたばるまでだぞ。寝返ったやつらで増強されてさえないなければ、こちらから押し出していき、髭と髭とを突きあわせ、本国までたたき返してやったのに。

奥で女たちの叫び声。

なんだ、あの声は？

シートン 女どもが騒いでおるようで。見てきます。

マクベス 恐怖の味を、おれはほとんど忘れていたようだ、かつては、夜を突ん裂く叫び声に、背筋を

凍らせたものだった。恐ろしい話を聞けば、髪の毛の一筋一筋が生あるもののごとく逆立ったものだった。それがどうだ、いまはどんな恐怖も人殺しのおれの胸には身内同然、身ぶるい一つしないのだ。

シートンふたたび登場。

なにを騒いでいた？

シートン お妃様が、陛下、お亡くなりにな

マクベス あれもいつかは死なねばならなかった、

このような知らせを一度は聞くだろうと思っていた。

明日、また明日、また明日と、時は

小きぎみな足どりで一日一日を歩み、

ついには歴史の最後の一瞬にたどりつく、

昨日という日はすべて愚かな人間が塵と化する

死への道を照らしてきた。消えろ、消えろ、

# シェイクスピア 『マクベス』

Shakespear, William (1606?). *Macbeth* (小田島雄志 訳 『マクベス』 (白水uブックス、1983) )

# 安部公房 略歴

- ・1924年 東京に生まれる
- ・1925~47年 満洲医大の父とともに満洲へ
- ・1948年 東大医学部卒業
- ・1951年 『壁』で芥川賞を受賞
- ・1970年 安部公房スタジオ 設立
- ・1992年 急性心不全により逝去



引用元：“Abe Kb 【安部公房】”, Encyclopedia of Japan (講談社),  
ジャパンナレッジSchool, <https://school.japanknowledge.com>, (参照日：2021/5/21)

# 安部公房 評価

- ・ **安部公房の創りだす世界は、どれも  
実に変な世界**だ。……一度その世界  
を体験させられた者はしばしば、ド  
アからふたたび日常に戻ってもまだ  
頭がくらくらしていて、**見慣れた日  
常風景のほう**が逆に**非現実的に見え  
てくる**といった思いを味わせられ  
る。（中野孝次の解説より）



安部公房『壁』（新潮文庫、1951年）